

Shien

し え ん

第34号

バックナンバーは
埼玉県立図書館
ウェブサイトへ！



子どもの読書に関わる方々の活動とネットワークを支援(Shien)する。
そんな大きな願いをもったささやかな情報誌です。

特集 平和を伝える

太平洋戦争の終戦から80年を迎えた2025年。
この節目の年に、改めて「平和」について考えてみませんか？
今回は、本を通して子どもたちに「平和」を伝える取り組みを紹介します。

p2「平和」を伝えるイベントレポート」みやしろ平和展より、展示「80年前のみやしろ」・「資料展示 ～一つの花～」

調べる本を
紹介します！



「子どものための平和の本」ガイドブック



- 『戦争と平和 子どもと読みたい絵本ガイド』
(草谷桂子著 子ども未来社 2023)
- 『子どもの本から平和を考える』
(児童図書館研究会編 児童図書館研究会 2017)
- 『明日の平和をさがす本 戦争と平和を考える絵本からYAまで300』(宇野和美, さくまゆみこ, 土居安子, 西山利佳, 野上暁編著 岩崎書店 2016)

- 『きみには関係ないことか
戦争と平和を考えるブックリスト‘03～’10』
(京都家庭文庫地域文庫連絡会編 かもがわ出版 2011)
※1984、1991、1997、2004年発行のものもあります。
1984、1991年発行ものは、副題・出版社などが異なります。
- 『1800冊の「戦争」子どもの本を検証する』
(読書研究会編 かもがわ出版 1991)



「平和」を伝えるイベントレポート

今回は、図書館や保育園がボランティア・保護者の方と協力して行っている「平和」をテーマとしたイベント取材しました。ここでは、イベントの内容や参加者等の様子をレポートします。

みやしろ平和展（宮代町）

宮代町では、ボランティアの方たちが中心となって、30年ほど前から原爆の写真展や朗読劇を行ってきました。新型コロナウイルスをきっかけに朗読劇の中止が続いていましたが、子どもたちに平和の大切さを学ぶきっかけを作りたいという思いから、町とボランティア団体「みやしろ朗読の会」が連携し、2024年から戦争に関する作品の朗読会と関連資料展示を実施しています。

今年(2025年)は、7月18日(金)から8月10日(日)にかけて、「みやしろ平和展」と題し以下の内容でイベントを開催しました。会場は、いずれも宮代町立図書館です。

- ① 「ヒロシマ・ナガサキ原爆写真展」 ※私たちと原爆を上演する会
- ② 「80年前のみやしろ」(戦争・平和に関する資料展示)
- ③ 「資料展示 ～一つの花～」(埼玉県平和資料館から借用)
- ④ 「朗読会『一つの花』」 ※みやしろ朗読の会
- ⑤ 短編アニメーション『最後の空襲くまがや』上映
- ⑥ 子供平和映画会『象のいない動物園』 ※宮代16ミリクラブ

(※は、協力しているボランティア団体です。)

このうち、7月24日(木)開催の「朗読会『一つの花』」に職員Iが参加してきました。

朗読をされたのは、「みやしろ朗読の会」の方です。この日の朗読会には、子ども4人、大人3人が参加。感情のこもった力強い朗読を、子どもたちは静かに集中して聞いていました。朗読の後には、自身の戦争時の体験を交えながら、戦争は本当にあった出来事なのだとお話しする場面もありました。

その後は、絵本を2冊読み聞かせ。組み合わせる絵本は、優しい気持ちや楽しい気分になれるものを選ぶなどの工夫をされていました。

～ この日のプログラム ～ (約30分)

『一つの花』(今西祐行作)

『はちうえはぼくにまかせて』(ジーン・ジオンさく

マーガレット・ブロイ・グレアムえ もりひさしやく ペンギン社 1984)

『トラのじゅうたんになりたかったトラ』

(ジェラルド・ローズ文・絵 ふしみみさを訳 岩波書店 2011)



朗読会の後には、宮代町立図書館 展示ホールで行われていた①～③の展示を見学しました(表紙写真参照)。展示スペースの中央には、戦争や平和に関する絵本を集めて並べる工夫も。

見学中には、図書館利用の前後に展示スペースに立ち寄る子どもの姿も見られました。身近な施設である図書館が、子どもたちに平和を伝える場としても活用されていることを実感した1日でした。

《「みやしろ朗読の会」の方に、活動への思いを聞きました》

- 平和が当たり前でない今、特に次世代の子どもたちと平和の尊さや大切さを一緒に考えていけたらと思い、みんなでこの活動を続けています。この活動が小さな光となって、図書館に来た子どもたちの心に響き、「平和」を考えることに広がっていくことを願っています。
- 私たち家族は昭和20年11月上旬に日本に引き揚げて来ました。その時に母が原爆後の広島の地を見て「百年間人も住めないし、草も生えないと聞いていたのよ。それなのに雑草の緑が見えた。」と言った言葉が忘れられず、原爆に関心を持つようになりました。「気持ちのいい朝ね」と言った瞬間、命が消える。その悲惨さに目をおおいました。このことを永遠に伝えなければと思い、活動を続けています。

へいわをみつめる絵本展（幸手ひまわり幼稚園）

ここでは、子ども読書支援ボランティアが訪問した幼稚園の取り組みを紹介します。

期 間：2025年7月8日(火)～7月11日(金)

会場・主催：幸手ひまわり幼稚園・へいわをみつめる絵本展実行委員会



今回は「へいわをみつめる絵本展」を毎年行っている、幸手ひまわり幼稚園を訪問しました。

絵本展は2022年に始まり、今年で4回目。活動を始めたきっかけは、ロシアがウクライナに侵攻したニュースでした。大人たちに戦争を知ってもらい、平和を見つめなおすきっかけになってほしいという願いから始まりました。幼稚園から保護者のサークル「絵本のお母さん」に企画を提案、ともに「へいわをみつめる絵本展実行委員会」を結成して、活動し現在に至っています。

会場の一室には、戦争や平和に関する絵本や児童書など多数展示されていました。在園・卒園保護者による選書は毎回異なり、新鮮です。他にもコミックなどがあり、特に書店でも注目された『戦争は女の顔をしていない』のコミック(スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ原作 小梅けいと作画 速水螺旋人監修 KADOKAWA)は同タイトルの書籍(スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ著 三浦みどり訳 岩波書店 2016)をもとに、旧ソ連(現ロシア)従軍女性たちの姿が視覚的に描かれ、読者の心に響きます。



絵本のお母さん

幼稚園の子どもたちに絵本の読み聞かせ活動や絵本講座を開催。今後も子どもたちに多くの絵本を届けたい！

「絵本展に参加された方々の反応は？」と飯島晴美園長にお聞きしたところ、「日本では戦争体験者が減少している時に戦争について考えるため、知るため、伝えるために絵本はとても有効であるという声をいただいた。自分の知らない絵本との出会いが、また新たな扉を開けてくれているようだ。在園の方はもちろん、卒園児の保護者も足を運んでくださり、平和について思いを馳せる時間を過ごしていただいたように感じる」と語ってくださいました。

取材した自分も毎年訪れていますが、これからもどのような平和に向き合える絵本に出会えるか楽しみに、また足を運んでみたいです。

—参加者のアンケートから—

戦争や平和について書かれた絵本は、自分が小学校位の時に少し読んだだけで、それ以降は、読んだことがありませんでした。色々な本があることを知ることができて良かったです。

戦争の辛さを伝えるだけでなく責任や共存についても考えられる絵本もあり、平和ってどんなことなのかな？と改めて考えました。子どもたちに伝えたい、一緒に考えたいと思いました。

こんなに平和な場所もある一方で、人がなくなる場所もあることがなかなか実感できないからこそ、絵本を通じて少しでも平和について考えることは大切なことだと思います。

「平和」に関するブックトーク紹介

子ども読書支援ボランティアが、「平和」に関連するテーマで行ったブックトークをご紹介します。
皆さんのブックトークにも、ぜひ「平和を伝える」本を取り入れてみませんか？

テーマ

「世界の子どもたち」

【対象】 中学校2年生 2クラス

【時間】 45分

【内容】『魔法の泉への道』(リンダ・スー・パーク著 金利光訳 あすなろ書房 2011)をメインに、「難民」に関連する本を中心に組み立てたブックトークです。

まずは、パネルシアターで『いも・にんじん』の数え歌をみんなで言い、緊張をほぐしてから本の紹介に入りました。

1冊目には、難民キャンプで暮らす少女たちの友情を描いた ①『ともだちのしるしだよ』(カレン・リン・ウィリアムズ、カードラ・モハメッド作 ダーグ・チャーカ絵 小林葵訳 岩崎書店 2009)を紹介。救援物資として届いたサンダルの片方ずつを見つけたリナとフェローザ。二人はサンダルを共有することで友情を深めていき、そのサンダルは「ともだちのしるし」になります。

メインとして紹介したのは、②『魔法の泉への道』です。内戦により難民となった少年と、生きるために遠方まで水を汲みに行かねばならず学校にも行けない少女の物語。スーダン内戦の実話がもとになっています。

そのほか、以下の本を簡単に紹介した後、子どもたちの前に展示しました。

③『わたしの夢、わたしの人びとの苦しみ』(子供地球基金中部事務局編 ポプラ社 1999)

④『せかいいちうつくしいぼくの村』(小林豊作・絵 ポプラ社 1995)

⑤『アフガニスタン 勇気と笑顔』(内堀たけし写真・文 国土社 2004)

⑥『ワタネ・マン わたしの国アフガニスタン』(長倉洋海著 偕成社 2002)

⑦『コソボの少年』(長倉洋海著 偕成社 2000)

みんなよく聞いてくれ、充実したブックトークになりました。ブックトークが終わったあとは、「この本読んでみたい」と多くの子どもたちが紹介した本を手にとってくれました。

中北(子ども読書支援ボランティア)

テーマ

「生き延びる」

【対象】 小学校高学年 1クラス

【時間】 45分

【内容】 戦争の残酷さや理不尽な差別、迫害の中で生き延びるとはどういうことを考えるきっかけになる作品を取り上げました。

最初に紹介するのは、①『おとうさんのちず』(ユリ・シュルヴィッツ作 さくまゆみこ訳 あすなろ書房 2009)です。戦争で故郷を追われた家族。お父さんが買ってきた一枚の美しい地図が主人公を想像の国へ誘います。物語やアートが人が生き抜くときに必要な力になることを描いた自伝絵本です。

続いて、ナチス侵攻から逃亡した作者の自伝的物語 ②『チャンス はてしない戦争をのがれて』(ユリ・シュルヴィッツ作 原田勝訳 小学館 2022)を紹介。タイトル「チャンス」の意味は「偶然」。自分たちが生き残れたのは偶然だと作者は述べています。

3冊目は、③『明日をさがす旅 故郷を追われた子どもたち』(アラン・グラッツ作 さくまゆみこ訳 福音館書店 2019)です。争いによって故郷を追われた3人の子どもたち。時代も場所も異なる彼らの運命は、思わぬところで結びつくことになり…

最後に紹介するのは、④『命をつないだ路面電車』(テア・ランノ著 関口英子、山下愛純訳 小学館 2024)。実話をもとにしたフィクションです。ユダヤ人の強制連行が始まった時、12歳の少年エマヌエーレは、路面電車にとび乗ります。車掌や乗客の助けで、3日間を電車の中ですごし命をつないだ少年の勇気の物語。生きる気力と元気がわいてくる一冊です。

そのほか、以下の本もおすすめしました。

⑤『シリアからきたバレリーナ』(キャサリン・ブルートン作 尾崎愛子訳 平澤朋子絵 偕成社 2022)

⑥『この銃弾を忘れない』(マイテ・カランサ作 宇野和美訳 徳間書店 2024)

⑦『ナム・フォンの風』(ダイアナ・キッド作 もりうちすみこ訳 佐藤真紀子絵 あかね書房 2003)

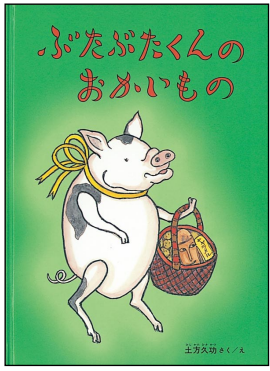
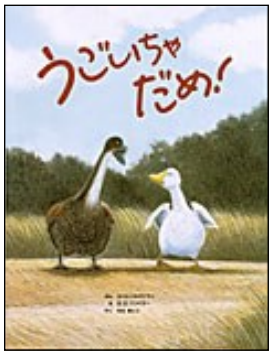
⑧『シリアの秘密図書館 瓦礫から取り出した本で図書館を作った人々』(デルフィーヌ・ミヌーイ著 藤田真利子訳 東京創元社 2018)

小野寺(子ども読書支援ボランティア)

仲間と楽しく 笑いあう絵本

楽しい絵本をみんなで共有して、笑いあう。そんな読み聞かせの時間は、子どもたちにとって身近な平和の一つではないでしょうか。

今回のブックリストでは、参加者みんなで笑いあいながら楽しめる、読み聞かせに向く絵本をご紹介します。

タイトル	作者	出版社 出版年	あらすじ	読み聞かせのヒント	対象
ぶたぶたくんのおかいもの 	土方久功 作・絵	福音館 書店 1985	ぶたぶたくんはお母さんに買い物を頼まれ一人で出かけていきます。訪れるお店は3つ。それぞれのお店に特色があり、また、途中で出会う友達との買い物も楽しそう！50年以上も続くロングセラー絵本です。	きみたち、こぶたのぶたぶたくん しってる？—この出だしで読み始めると子どもたちは「しらな〜い」とすぐに反応。このぶたぶたくんに子どもたちは親しみを覚えるようです。低学年の読み聞かせではお店屋さんの雰囲気に合わせて読んだりも。最後の見返しのページには地図が掲載され、読後、ぶたぶたくんの気分でお店をたどるのも楽しい。	低学年
うごいちゃだめ！ 	エリカ・シルヴァマン 文, S. D. シンドラー 絵, せなあいこ 訳	アスラン 書房 1996	あひるとがちょうが、どちらがほんとのチャンピオンか競争します。泳いでも飛んでも勝負がつかないので、“うごいたら負け”競争で決めることに。蜂がぶんぶんいっても、うさぎの群れに囲まれても二羽は動かない。けれどそこへきつねがやって来て…。	ささいな競争心が子どもたちの共感を呼びます。どちらが勝つかな？と微笑ましい話が一転、後半は緊張が高まります。ほんとのチャンピオンてなんだろう？子どもたちは感じ取ってくれるでしょう。	中学年
せかい1おいしいスープ 	マーシャ・ブラウン 絵, わたなべしげお 訳	ペンギン 社 1979	3人のはらぺこ兵隊がある村にやってきて、食べ物を分けてくれと頼みますが村人にも余裕がなく断られます。すると、兵隊たちは「石のスープを作る」と言い出し…。賢い3人の兵隊と気のいい村人たちとのとんちのきいたストーリーが面白い！	「せかい1おいしいスープ」とはどんなスープだろうと子どもたちはタイトルからひきこまれます。兵隊たちと村人たちがみんなで食卓を囲むシーンは満ち足りた幸せにあふれます。石のスープのおかげで分かち合う喜びや優しさまで思い出させてくれます。二色刷りにも関わらず色彩が見えるようです。ストーリーも絵もお腹も心も満足する絵本です。	高学年



子ども読書支援ボランティア情報収集担当よりおすすめウェブサイトの紹介

平和を学べる施設



埼玉ピースミュージアム【埼玉県平和資料館】（東松山市）

<https://www.saitama-peacemuseum.com>

1993年に東松山・物見山公園内に開館。戦前から終戦期の県民の暮らしと戦争体験を、常設展示や防空壕の“疑似体験コーナー”で学べます。戦争の悲惨さと平和の大切さを伝える施設です。



埼玉ピースミュージアム

平和祈念展示資料館（総務省委託）（東京都新宿区）

<https://www.heiwakinen.go.jp/>

戦争で苦難を経験した民間人の記録を保存・公開する国の施設です。引揚者や海外からの帰還者の生活、戦後復興の様子などを貴重な資料や映像で紹介し、平和の尊さを後世に伝えています。



平和祈念展示資料館

原爆の図丸木美術館（東松山市）

<https://marukigallery.jp/>

丸木位里・俊夫妻が描いた「原爆の図」全15部を常設展示する美術館です。広島の被爆の実相を表現した絵画を通して、戦争の悲惨さと平和の尊さを訴えています。平和と記憶の継承をテーマに、企画展や講演会なども開催しています。



原爆の図丸木美術館

戦後80年を迎え、太平洋戦争に関する展示をしている施設を取り上げました。

他にも太平洋戦争を扱った施設は全国に沢山ありますが、今回は埼玉から気軽に行ける施設を紹介しました。

坂本(子ども読書支援ボランティア)

子ども読書支援センターからのお知らせ

県内最大級の
図書館イベント！

図書館と県民のつどい埼玉2025

「図書館と県民のつどい埼玉」は、県立・市町村・高校・大学等の図書館や、活字文化を支える団体が協力して開催する県内最大の図書館イベントです。

日時:2025年12月14日(日) 11時から16時

場所:桶川市民ホール・さいたま文学館

【子ども読書活動交流集会】

★わらべうた実践講座 おはなし会でわらべうたを！～乳幼児から小学生に～
(講師:吉田優子さん・平田潤子さん(にこにこ文庫))

★学校図書館講座 多様な子どもたちへの読書支援～特別支援学級での取り組みを中心に～

(講師:吉井嘉奈子さん(東京都立多摩図書館司書)、事例発表:村上勅江さん(元公立小学校教諭))

★こどもの本のひろば(資料展示・工作会)



図書館と県民のつどい埼玉2025
ウェブサイト

